

Mateno en Sapporo

Vekiĝis mi tro frue,
Ĉirkaŭe estas mallume,
Ĉio dormadas senbrue.-----
Sidadas mi sola medite;
Pasis tempo dume.

En arbaro subite
Profundan kvieton spite
Ek pepas, ĉirpas, krias,
Birdetoj sin alvoke,
Kies nomojn mi ne scias.
Ili kantas ĉarme, alloge.

Jen aŭdiĝas sonoro
El la horloĝa tur',
Al vasta kampar', tra l'natur';
En mateno de Sapporo.
Nun venis nova tago
Por freŝa viva ago!

I.U.
ĉe Clerk Memordomo,
aŭgusto, 1968

Pri "Mateno en Sapporo",
versa folio de Ito Saburoo

KIRIKAE Hideo

Mi restigas fotalbumojn de la bedaŭrata Yamaga Isamu en mia domo. En unu el ili oni trovas unufolian manskribaĵon konservatan aparte zorgeme. Travida haŭto kovras ĝin por ke la inko estadu freŝe blue. Oni legas belan versaĵon titolitan je "Mateno en Sapporo", kaj ekkonas laŭ la subskribo I.U. ke la verkinto estas la fama esperantisto Ito Saburoo. Kvankam la versaĵo estas jam publikita en Leontodo, n-ro 39, p.13, Hokkajda Esperanto Ligo (HEL), 1969, Feb. (iama organo de HEL), tamen ĝi entenas tiom da valoro, ke ĝi reaperu en la nuna organo de HEL.

Kiam Ito partoprenis la 55-an Kongreson de Japanaj Esperantistoj okazintan en Sapporo en Aŭg., 1968, li tranoktis dum la kongresaj tagoj en Clerk Memordomo (daŭrigota al p.2)

(daŭrigo)

(Kuraaku Kaikan) de Hokkaidoo
Universitato. Yamaga, la estro de
plenumkomitato de la kongreso,
gvidis lin de la domo al la
kongresejo. Itoo donis al li la
versaĵon tiam.

Tiun matenon Itoo vekigis tre
frue kaj ne povis redormiĝi. Dum
tagiĝis, ankaŭ lia versista koro
vekiĝis. Supozeble Yamaga ĝuis la
versaĵon kvazaŭ li ĝuus ĵus
deprenitan frukton malsekan de
matena roso.

La zorgema konservinto de la
versa folio estimis la versiston;
li lin alte taksis ĉar li estis
"pura homo", kaj bedaŭris ke dum
la vivo li ne estis akceptita de
la mondo per pli alta rango.

Baldaŭ ni, anoj de Sappora
Esperanto-Societo, okazigos la
75-an Japanan Kongreson. Mi
malkovras la freŝe konservitan
folion al miaj kunuloj por ke ili
refreŝigu sin legante ĝin dum
lacigema laboro. Mi ankaŭ esperas
ke ĉiuj partoprenontoj de la
kongreso renkontu tian belan
matenon en Sapporo kian Itoo
renkontis antaŭ 20 jaroj.

LEONTODO (当時のHEL機関誌) 1969年2月号
初出の伊東三郎 (I. U.) の詩『札幌の朝』を再録
し、あらたに切替英雄氏の解説を付した。(編)

速 報 !

Vladivostokoの E-isto が5月来道

VladivostokoのUEA-delegito, S-
ro Sergej I. Anikejevは5月、観光団
の通訳として来日する。予定は、

5月8日 小樽、12~16日 東京、
17~19日 大阪、20~22日 広島、
23~25日 長崎、26~28日 金沢。

彼は私(星田)と'82年8月、ナホ
トカで会っている。この頃はソ連国内事
情の変化ペレストロイカへの支持などを
書いてきた。 (星田 淳)

北海道E連盟 強化合宿5月開催!

昨年、定例化した連盟主催のエスペラ
ント強化合宿の実行委員会が発足した。

今年は昨年の場所(富良野市)、日数
(2泊3日)を見直し、いくぶん縮小し
ての開催も検討されている。いまのと
ころ、5月初旬、開催地-札幌市、日数-
1泊2日、あるいは1日だけの集中講座
形式になる公算がつよい。

開催地、日数の見直しは、誰れでも参
加できる合宿を、という会員の声を反映
したもので、主婦会員の参加が容易にな
り参加者が増える見通しもある。プログ
ラムは昨年同様、会話、翻訳、入門、再
入門などのコースが予定されている。

この合宿の詳細は、まもなく実行委員
会から発表される。

磯部幸子 J E I 理事長をしのいで

北海道エスペラント連盟常任委員 北島 瞳

磯部 J E I 理事長が亡くなられたと知らされたとき、何故か私は、ああやはり——と一瞬思った。

理事長と私の初めての出会いは第 69 回 UK であった。その後、毎年の UK あるいは日本大会で顔を合わすたびに「北海道大会へどうぞ」「都合がつけば是非」と話していた。たまたま第 50 回 H E L 大会での公開講演会の通訳者の依頼が折り合わず、その責任をとる形で私が引き受けざるを得なくなっていたころ、「都合がつきそう」ということになり、私の一存で来ていただくことを決め、大会準備委員会に諮ったところ、J E I に義理立てする必要はないと、案の定反対の意見が多かった。

その一部始終を話して来ていただいた。J E I 最高責任者の初めての H E L 大会への出席であった。さぞかし内心おだやかではなかったと思われたが、笑顔をたたえた彼女の、エスペラントにかける情熱、エネルギーな行動には皆が目を見張った。

「J E I は中央主義的ではない」「会員が地方にもいることを忘れてほしい」等々話し合ったことは忘れられない。なかでも評議員選挙

のあり方について話し合ったことは、とくに忘れられないことであるが、それが実現されなかったのは何としても残念というほかはない。また、日本大会を北海道でということについても話し合ったこともあり、H E L 会長と引き替えるが如き状況のなかで引き受けた大会準備に、S E S 会員でもある私が関わらないことにたいして、どのような意見をお持ちか聞いてみたいが、今はその術がない。

国際婦人年にふさわしく、日本エス界の最高責任者が女性であるということ、私は外国の友に誇らしげに話したこともある。

昨年の日本大会会場で話し合い、上海からの代表者たちとの記念写真が最後になってしまった。数多くはない出会いのなかから私には学ぶことの多い方であった。ピアリストックのザメンホフ胸像の前での笑顔が私の脳裏に焼きついている。

今後当分は学識、人格、行動力とも右に出るような女性理事長の出現はありえないと思うと惜しまれてならない。

磯部先生。やすらかに眠りください。そして緑の銀河から山賀先生ともども私たちを見守ってください。

磯部女史学会葬に供花

北海道エスペラント連盟は、磯部女史の日本エスペラント学会葬に際して、弔電とともに生花を供えた。また、札幌エスペラント会と Rondo Pupiloj もそれぞれ弔電を打った。(報告分)

《北海道 E 連盟の弔電》

「華さかむ世界語の種をうつし世のかぎり育
てし貴女がいさおし」

J E I 新理事長に井川幸雄氏

(財)日本エスペラント学会は2月21日の理事会で井川幸雄理事を新理事長に選任した。

井川氏は1924年生れ、東京慈恵医大教授、83年から J E I 理事。関東 E 連盟機関誌 PONTETO の編集長でもある。

第75回日本エスペラント大会情報
La 75-a Kongreso de Japanaj Esperantistoj
Sapporo, 1988-08-20/21

●ひらこう新世紀みどりの大地に！●

第75回日本エスペラント大会の
開催にあたって

第75回日本エスペラント大会組織委員会
委員長 吉原正八郎

世界最長の青函トンネルの開通、新千歳空港の開港及び世界・食の祭典（6月3日～10月30日）の開催などで札幌市は、名実共に国際都市として脚光を浴びています。

こうした時に、エスペラント運動第二世紀の幕開けは北海道からと“ひらこう新世紀みどりの大地に”を相言葉として、私達は第75回日本エスペラント大会の成功に向けて努力しております。

皆様がたの多数のご参加により、大会の成功を確実なものに、また、なかなか北海道・札幌を訪れる機会の少ない皆様に、爽やかな北海道の夏を楽しんでいただけるよう心からお待ちしております。

第75回日本E大会

88年8月20/21日 札幌市
北海道自治労会館（北6西7）ほか

★第75回日本エスペラント大会組織委員会
〒060 札幌市北区北7条西6丁目
クリスチャンセンター内
FAX 011-221-5079（日本大会と明記）
センター内に電話は設置しません。

大会の概要（予定）

これまでに組織委員会から本誌編集部へ届いた資料から最新の情報をお知らせする。なお詳細な案内書「日本大会・第1報」は4月初旬に出来上がり、Revuo Orienta 誌などにとじ込まれるほか本誌読者にも届けられる。その際、参加申し込み書（振替用紙）が同封されることになっている。

後援団体

北海道ユネスコ連絡協議会

大会参加費

一般	(6/30まで) 6000円 (7/1以降) 7000円
同伴家族（記念品なし）	2000円
学生・身障者	3000円
中高生	2000円
小学生以下	無料
不在参加	3000円

宿泊・交通

8月の札幌は観光シーズンのピークなので早めに確保することが必要。組織委員会が確保した宿泊施設・クリスチャンセンター（第二会場、一泊朝食付き3500円、男女別大部屋）の定員は50名。すでに往復ハガキで申込みが何件かきている（和歌山、東京）。今後は宿泊費の払込みをもって申込みとする。

東京・大阪からの参加者のための「航空券・ホテル割引セット」は人員の予測が難しく結局とりやめになった。

GAJA VESPERO

今大会では晩餐会形式はやめ、全参加者が北海道の味覚を楽しめるビール園でのジンギスカン・

パーティーを企画した。若い人にも満足してもらえる飲み放題、食べ放題。大会会場からバスで往復する。並行番組はない。8時終了のあと、大通り公園の市民盆踊りの輪にも入れるし、ススキノの灯はまだ消えてはいない。

大会観光、大会後観光

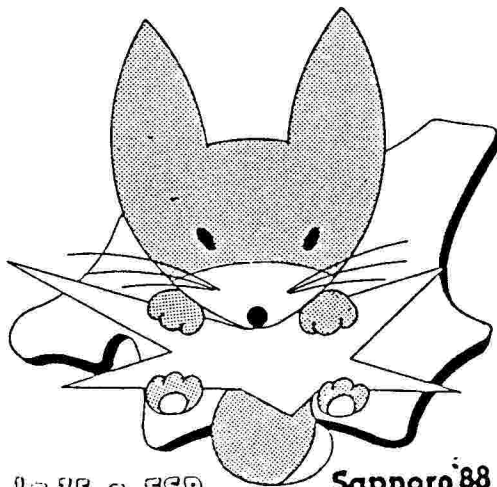
市内観光は貸切りバスの確保が無理なため中止になった。ただ、大会中の午前、午後に市内観光を希望する同伴家族、ne-esperantisto のために市交通局の定期観光バスを紹介する。これに乗れば札幌の名所はひととおり見ることができる。

大会後観光（洞爺湖・登別温泉一泊の旅）も組織委員会としては取り扱わないことになった。札幌エス会青年部が主催する。グループ、家族、個人での参加を待っている。最少催行人員20名。

人形劇・演劇・パネル展

大会2日目午後、プロの人形劇団 VESPERRUÛO の人形劇と市内平岸中学校演劇部OBによる岡一太作『緑の星のもとに』の公演がある。一般市民にも公開された番組となる。また大会会場ロビーに各地のエス会が製作したパネルを展示して、参加者と市民に紹介しようということで、協力をよびかけている。

(馬場恵美子)



大会プログラム

第 1 日 8月20日(土)	
10:00	受付開始(自治労会館) 自由交流
12:00	昼 食
13:00	開 会 式
14:00	分科会、姉妹都市交流体験 発表会(自治労会館、クリ スチャンセンター)
17:00	GAJA VESPERO会場へ移動 (往復ともバス利用。市内 南区・ビール園紅桜亭)
18:00	GAJA VESPERO
20:00	公式番組終了。
第 2 日 8月21日(日)	
9:00	受 付 け(自治労会館) 分科会、半日速成講座(自 治労会館、クリスチャンセ ンター)
12:00	昼 食
13:00	公開番組(自治労会館) ①人形劇(劇団Vesperruûo) ②演劇「緑の星のもとに」 (市内の高校生合同公演)
14:30	閉 会 式(自治労会館)
15:30	終了、解散。大会後観光出 発。

分科会、J E I 学力検定試験などの細目は「日本大会・第1報」をご覧ください。

宮本正男さんを励ます募金についてのお願い

宮本正男さんが関西エスペラント連盟事務局での常駐を退かれてから、すでに半年以上が過ぎました。宮本退任のニュースは宮本さんを知り、宮本さんと共にエスペラントの世界を歩んだすべての人びとに、ひときわ残念な思いを抱かせるものでした。

ご承知のように宮本さんは戦後JEAの時代を経て、1951年に当時の同志と共に関西エスペラント連盟の創立に参画されました。それ以来、同連盟の事実上の中心として、また関西連盟の機関誌だった La Movadoに東海、中四国、九州の各連盟が合流し共同機関誌となし、相互の連帯を強めてからは、これら各連盟を含めた私たちの運動のために献身されて来ました。運動が重大な局面を迎えるたびに、私たちは権威や偏見におもねることなく問題の核心を衝く、宮本さんの声を聞きました。独創的な思考の上に自ら行動する宮本さんの姿を見ました。

一方、宮本さんは故貫名美隆氏と共に「新選エス和辞典」の徹底的な改訂を行い、次いであの「日本語エスペラント辞典」の編さんを完成させたほか、原作や翻訳による膨大な作品をエスペラント界に提供しました。まさにそのことによって、宮本さんは日本文化をもっとも奥深く世界に紹介し、エスペラント界も宮本さんを Akademio de EsperantoのメンバーやUEAの名誉会員に推すことによって、その功績に応えたものでした。

宮本さんが関西エスペラント連盟の事務局を去られたいま、私たちは、多年にわたるご苦勞への感謝と今後の活動に対する期待を宮本さんにお伝えする必要を痛く感じます。

そのため私たちは思いを同じくする多くの方がたに呼びかけ、お互いの拠金によって、私たちの感謝と激励の気持ちを宮本さんに伝えたいと思います。

あなたの特段のご高配をお願い申し上げる次第です。

発起人（五十音順）

川村信一郎 北 さとり 久西 浩司 桑原 利秀
竹中 治助 鶴野 六良 問田 直幹 俣野 四郎
鶴木 敬憲（以上の世話人）

「宮本募金」要領

- | | |
|--------|--|
| 1. 一口 | 5,000円（何口でも歓迎） |
| 2. 送金先 | 次の郵便振替口座へ
口座番号 「福岡 8-49785」
口座名 「宮本募金」 |
| 3. 締切日 | 1988年3月10日 |
| 4. 世話人 | 鶴木 敬憲
〒870-01 大分市明野北1837,
共火社宅431
電話 0975-52-3124 |

長く関西エスペラント連盟事務局に常駐し、東海以西の五地方連盟の共同機関誌 La Movadoに健筆をふるっていた S-ano宮本が常駐をやめて半年になるという。

彼の名を初めて聞いたのは、もうずいぶん昔だ九州E連盟を S-ano市原梅喜が切回していた50年頃、当時の全国組織JEA解散問題についての彼の文を読んだときだった。ともかく、言いたいことがハッキリわかる文を書く人だな、という感じだった。

その後関西へ出た機会に何度か会い、話し合っ、なかなか面白い人だと思った。日本の詩や小説にいいものが多いのに、ほとんど海外に紹介されていない、エスペランチストなればこそやれる仕事なのに、という主張を、どこかで聞いたような気がする。しかし、エスペランチストには、私のような怠け者が多いのか、状況は変わらなかった。ところが何年かの後、彼の名で、日本の歌や詩の訳がL. M. 等に載りはじめたが、当時は大してうまいとも思えなかった(失礼多謝)。誰もやらないから、それではおれがやる、という気になったのだな、と感じた。

ところがだ。何年かたつうち、彼の作品を見て「あれェ?」と見直すようになってきたのだ。たゆまぬ努力の蓄積が次第に大きなものに成長していた。次々に本を出しコンクールに入選するなど国際的な評価も着実に上がっていった。今や、日本のエスペラント作家といえば、まずHiyamoto!といわれるようになってしまった。「呉下の阿蒙に非ず」を思い知らされた次第。

戦前いわゆるプロエス運動で投獄されたこと、沖繩戦で幸運にも生き残ったが米軍の捕虜収容所でストライキをやったことなどは後になって知った。10年をかけて日本語エスペラント辞典を作ったがんばりは、もうよく知られている。しかもすでに疲れた心臓をペースメーカーでもたせながら。すべて戦前からの彼の不屈の闘志を感じさせる。関西連盟の仕事から離れて彼はいま自らのたどった道を書いているが、そのまま日本エスペラント運動史の重要な資料となるだろう。universalなはずのエスペラント運動の西欧中心主義を撃った彼の Sarkasme kaj entuziasmeは、今なおその波紋を広げている。今後も長く日本の後輩や世界の Esperantujoへの彼の直言を期待したい。

宮本正男著・訳・共著(*)の広告

(注文はもよりの書店へ。発行所はすべて日本エスペラント学会と指定してください)

☆まず、これがないと手紙も書けない辞書

日本語エスペラント辞典 4800円

☆えっ、これもEで読めるの?日本文学翻訳

Loulan 井上靖の『桜蘭』と『異域の人』1800円

El la vivo de Syunkin *『春琴抄』ほか1300円

Vespera Gruo 木下順二の名作『夕鶴』1000円

Utaaro de Takuboku 『一握の砂』ほか1000円

El Manjoo 『万葉集』抄 300円

☆原作文学こそ宮本さんの本領です

Pri arto kaj morto 憶良、世阿弥…… 750円

Naskita sur la ruino--Okinavo 沖繩戦に 950円

☆歴史、評論も……ぜひ

Historieto de la japana E-movado 950円

Sarkasme kaj entuziasme 星田氏絶賛 1500円

新版・反体制エスペラント運動史* 2200円

(以上はごく一部です)

AINU-MOŠJR

"LA KVIETA TERO DE LA HOMO" jam delonge estas perdita. Dum la pasintaj 400 jaroj japanoj ripetis invadis la teritoriojn de siaj nordaj najbaroj, la AINOJ, kiuj iam loĝis ankaŭ en la ĉefinsulo, eĉ ĝis Tokio. Almenaŭ de post la batalo de Macumae, de la 14-a de junio 1669, la japanoj estas nerifuteblis mastroj de la granda insulo, kiun ili nomis "Ezo" ĝis 1869, kiam japanoj ĝin baptis "Hokajdo". Tie, sur 78515 kvkm vivas pli ol 5,5 milionoj da homoj, inter kiuj estas proksimume 24.000 ainoj. (Tamen, ankaŭ en la sovetuniaj Saĥaleno kaj Kuriloj loĝas ainoj, pri kies nombro oni scias eĉ malpli ...) Sciencistoj taksas ke nuntempe nur kvincent personoj parolas la ainan lingvon! La origino de tiu etno kaj ĝia lingvo restas enigma.



JAPANA ŜOVINISMO KONTRAŬ AINOJ

Antaŭ sep jaroj aperis, en ETNISMO 25 (07.11.1980) recenzo pri "AINAJ JUKAROJ", kiujn ni, esperantistoj en Hokajdo, estis eldonintaj. En la libro ni komentis pri la nuna stato de la aina lingvo jene:

"Neniu uzas la ainan lingvon en ĉiutaga vivo. Restas nur kelkaj maljunuloj kiuj scias la lingvon de prapatroj."

Ankoraŭ nun ĝenerale validas tiu komento, sed mi aldonu iom. Lastatempe en kelkaj lokoj okazas kursoj por lerni la ainan lingvon ne nur por lingvistata studado, sed ankaŭ por ekkoni la lingvon de la prapatroj. En infanĝardeno de Nibutani en la urbo Biratori, la infanoj lernas la ainan lingvon de la estro, Ŝigeru Kajano, aina verkisto.

En septembro 1986 la japana ĉefministro Nakasone parolis en studkunveno de la reganta Liberaldemokrata Partio (LDP) kaj diris i.a. ke la inteligenteconivelo de usonanoj estas ne alta, ĉar ili enhavas elementojn negran, portorikan kaj meksikan. Tio ofendis ne nur usonajn minoritatojn, sed ankaŭ la etnajn minoritatojn en Japanio, nome koreojn kaj ainojn.

Nakasone estis dirinta: "La japana popolo havas unikan superecon vere fierindan, ĉar ni estas

HOMOGENA NACIO.

Tiel li ignoris la ekziston de minoritatoj en nia lando. Kontraŭ tiaj paroloj, tuj leviĝis voĉoj de protesto inter ainoj.

Por tiuj voĉoj oktobre en la parlamento respondis Nakasone ke la ainoj kaj japanoj jam multe kunfandiĝis, do, ekzemple, eblas ke en li troviĝus aina sango, ĉar ankaŭ liaj brovoj kaj barboj estas densaj. Menciis tiajn korpajn karakterojn en ŝercaj diroj pli ofendis ainojn, kiuj tuj publikigis sian proteston aŭ en ĵurnaloj aŭ per rektaj leteroj al la ĉefministro. Fine, ankaŭ al Unuiĝintaj Nacioj ili skribis. Ili ĉiam emfazas la ekziston de la aina gento kaj mencias multajn ekzemplojn de diskriminacio en la historio.

Iu aina gravuristino skribis: "Al mia filino diras japanaj samklasanoj ke ŝi estas malbela pro abunda hararo sur la haŭto, ke tia knabino ne povos edziniĝi ... Do, ŝi hejme lavis kaj lavis sin, sed ne malaperis la haroj, do, ŝi razis, sed baldaŭ ili reaperas ... Ni bone memoras ke la vorto 'haroza' (=harabunda) estis ĉiam mokvorto de japanoj kontraŭ ni, ainoj, pro korpa karaktero. Tia diro de la ĉefministro montras ke li neniom komprenas pri nia sufero, sed nur volas ignori nin."

La 21-an de oktobro Nakasone iom korektis sian diro kaj konstatis ke aina gento ekzistas kun sia unika kulturo, sed li aldonis ke ainoj kaj japanoj preskaŭ kunfandiĝis kaj nun ne ekzistas minoritata gento diskriminaciata en Japanio. Tamen --- en ĉi tiu ŝtato validas leĝo speciala por ainoj, nome: "Leĝo por protekti eks-indiĝenojn en Hokajdo". Ĝi naskiĝis en 1898. Post la "Renovigo de Meĵji", t.e. la likvido de la Tajkuna regado en Japanio, nova japana registaro mikado Meĵji ege klopodis modernigi la landon kaj precipe la maldense loĝatan Hokajdon. Unue ĝi decidis ke la tuta tero, kie ainoj loĝis kaj ĉasadis, fariĝis ŝtata proprajo. Por in-

viti enmigrintojn, ekde 1886 la registaro disdonis la tero de Hokajdo al la alvenintoj el aliaj partoj de Japanio. Dume la montaron kaj arbaron la registaro igis ŝtata propraĵo, kie ainoj perdis la rajton de libera ĉasado kaj fiŝkaptado.

Pro la premo de multiĝantaj japanaj enmigrintoj, ainoj suferis multe, ĉar ili esence esti ĉasanta gento kaj ne povis facile fari sin terkulturistoj kiel japanoj, kvankam la registaro persvadis ilin. Tial la gubernio Hokajdo proponis al la tiam imperia parlamento la "Leĝon por protekti eks-indiĝenojn [=ainojn/ en Hokajdo", kiuj - laŭ la proponanto - "pro manko de saĝo kaj edukiteco nur povas atendi frostiĝon kaj malsatigon; ankaŭ la favoro de naturaj trezoroj, per kiuj ili longe povis vivi, jam estas plejparte okupitaj de japanaj enmigrintoj." La leĝo validiĝis en 1899 por doni teron al ainoj kaj ilin fari terkulturistoj. Sed multaj el ili ne povis sukcesi kaj perdis la teron. Poste, pro la agrara reformo en 1948, sian teron perdis multaj ainaj terposedantoj, kiuj mem ne kulturis, sed farmigis ĝin al japanoj. De tiam la leĝo perdis kapablon doni teron al ainoj, sed nur malhelpas ilin vendi sian teron.

La "Asocio de Utari" [=fratoj], organizo de ainoj, protestis ĉe Nakasone kaj postulas novan leĝon por garantii al la ainoj homan dignon, enkonduki kursojn de aina lingvo kaj pri aina kulturo en universitatoj, por meti siajn reprezentantojn en la parlamenton.

Acuŝi Hoŝida,
D/FD en Tomakomai

Krom la menciita recenzo, estis publicitaj du artikoloj pri ainoj en ETNISMO. En numero 10, de la 1-a de novembro 1975, p. 10, aperis unuaj notoj, kaj en la tuj posta numero 11, de 20. 12. 1975, en paĝoj 4 ĝis 7 estis presita teksto de Mukai Toyoki titole de "'Aino' estas 'la homo'". ■

夢は日本の着物を世界に紹介すること

札幌 佐藤みはる

私がエスペラントというものを知ったのは小学校の1、2年生くらいのころでしょうか。わが家は大本を信仰しているので、若いころ両親が少し勉強していたらしく、家の中には昔から緑色の表紙の『誰にでもわかるエスペラント絵入読本』や『エスペラント四週間』などが本棚に並べられていて、とくにこの緑色の2冊はとても印象に残っている本です。小さいころ、朝起きると“Bonan matenon, patro!”とか“Bonan nokton patrino”などと言っておもしろがっていたのをよく覚えています。このころから、ずーっとエスペラントを続けていたなら、今ごろはきっと……。

語学というものがこれといって好きという訳でもありませんが、エスペラントを大本では重要視しているので、やはりいつかは学ばなければならぬとは思ってはいました。しかし、私は「不勉強」という言葉の代名詞のような人間ですから、少しも進歩というものがなく、よく「若い人はいいわねー。覚えが早いからすぐですヨ」といわれいつも私は心の中で「みんなはそうでも、私はちがうのよ!」とつぶやいています。それでも合宿や大会などに参加すると「さあ、頑張らなきゃ」という気持ちになって帰って来ます。でも、実行に移すのはなかなか難しくて……。

先日、テレビで小学生の男の子が、札幌雪まつり会場で中国の観光客を相手にペラペラと中国語で案内しているのを見てビックリしました。彼は中国語の美しく、流れるような流暢さに魅せられて、テレビの中国語講座などで勉強して、約一年半でマスターしたとっていました。私はそれを見ていて、自分のこれまでの1年8ヶ月はいったい何だったんだろうと思い、「穴があいたら入り

たい」とはこのことだと思いました。彼のような子どもがエスペラントをすると凄いでしょね。

私が母にすすめられてエスペラント学習に通いだして1年8ヶ月。私の場合、よい先生方やまわりの人たちがいるにも拘らず、一番の欠点は、耳で理解できて、エスペラントで応えられることでも恥ずかしいという気持ちが先立って、スッと口をついてでてこないことです。

こんな私にもほんの小さな夢があります。いま私が通っている和裁の専門学校も今年で6年目で来春には卒業します。ですから、それまでに日本の着物の種類や伝統、どんな場所へどんな着物で出席するのがふさわしいか、などをまず日本語でしっかり学び、いつかそれをエスペラントで説明できるようになれたらなー、という夢です。もっともこの小さな夢、いえ私にはずいぶん大きな課題ですが、これがかなうのはまだまだ先です。でも、できれば腰の曲がったおばあちゃんになる前には、と思っています。

本当に勉強不足な私ですが、エスペラントとは一生つきあっていくでしょう。これはもちろん大本信者だということもありますが、それとは別にエスペラントがいかに素晴らしいものかを自分なりに理解しているつもりだからです。平和な世界を考えたとき、エスペラントの輪を広げていくということが、いちばん近道で、みんなが参加できる道だと思います。ただ現状はその近道がちょっと難しいのですが。

それでは最後に「わが家では家族でエスペラントを勉強しているので家中で会話しちやってペラペラよ!」と alparoli する日を夢見て、*Ĝis la revido!*

ラジカセを第三世界に贈ってください

昨年のワルシャワの世界大会に出席した方たちは、色とりどりの民族衣装を着た十数人のアフリカからの代表たちに気がつかれたと思います。エスペラント百周年の年にアフリカの若者たちがこれほど多く世界大会に出席したことは、エスペラント運動の真の世界化を予測させるできごとでした。

しかし、アジア・アフリカにエスペラント運動を根付かせ、成長させるには指導者、教材、エスペラントを実用する機会など、すべてが不足しています。長年アフリカへエスペラントを広めるための努力を続けたことによりワルシャワ大会で第一回出口王仁三郎賞を受賞したオランダのハンス・バックー氏が、日本の皆さんにぜひ力を貸してほしいと、次のように手紙を寄せてきました。

「カセット・テープや短波放送で『実際に話されている』エスペラントを聞いてみたいというのがアフリカのエスペランチストたちの切なる望みなのです。クルーボに一台そうした機器があれば、それは彼らにとって単なる教材であるだけでなく、外の世界と接触するための窓になるものなのです。アフリカでは高嶺の花のこうした機器も、日本には豊富にあり安く手に入ると聞いています。もし日本のエスペランチストが援助してくれば、アフリカの人たちはその友情でどれほど勇気づけられることでしょう」

バックー氏のところにはこの8年間にアフリカ諸国からエスペラントについて5000件以上の問い合わせがあり、その中の350人が通信講座を受け始め、200人が地元の講習会に参加しているそうです。現在アフリカには41のエスペラントクルーボがあり、また4か国に国内組織ができています。

あなたの戸棚の隅に、ラジカセ、カセットのテープレコーダー、短波の入るラジオなどが眠っていたら、アフリカの仲間たちに贈ってあげていただけませんか。できれば電池で使用できるものがよいと思います。下記まで送ってくだされば、バックー氏と連絡して皆さんの気持ちをこめてアフリカの同志たちに運びたいと思います。

梅田 善美

153 東京都目黒区青葉台2-15-10

世界エスペラント協会東京事務所

Tel. 03-770-6486

ジュースにジャム、薬 もちろん果実酒

ナナカマドの利用法

世界中のエスペラント仲間から返信

へーツある もんですネ



ナナカマドの実には世界中で愛用されている



ナナカマドの実の利用について語る星田さん

マチの
研究者 星田淳さんが調査

百小牧市の木「ナナカマド」の実の利用方法はないだろうか。昨年九月のナカマド祭の前、よくそんなことを考えて、世界中のエスペラント仲間に行き渡らせた。あつね、あつね、それらのお返事を交換してジュース、果実酒、ジャム、せんじ紙と有効利用がいろいろ。ビタミン豊富、肉離の炎症治療に効果、利尿剤、緩下剤、防癌剤と多種多様、改めてその用途と効力の広さにびっくりした。と語る「ナナカマド研究者」が百小牧にいる。

話頭的主は百小牧市系井三九三ノ八三住の星田淳さん（五〇）。昨年九月百小牧の一茶銀座通りを舞台に繰り広げられた第回ナナカマドまつりを前にして、七月から八月にかけてポランドのワルシャワ市で開催された世界エスペラント大会に参加し帰国した星田さんは、ワルシャワ市内で売っている干したナナカマドの果のこぼれを思い出した。ワルシャワの市民はジャム、腸胃薬、ビタミン補給剤として愛食、愛飲されているという。

せうかくのナナカマド祭りがあるお祭り騒ぎ騒むものではなく、ナナカマドを見直すような催しもあっていいのではないかと思つた。それから興味を持って全国のエスペラントの仲間、ナナカマドの実の利用法があれは教えてくれないかと手紙で問い合わせた。ポランド、スウェーデン、などを数人から返事が来た。一番に実なる種類もあるらしいんです。ジュース、ナナカマドの実の砂糖煎、もちろん果実酒も、薬用酒ですね。ジャム、干した実を薬用として食べるものと色々あるんですね」と星田さん。

外国ばかりではない。江別市にはナナカマド研究会（坂本与市代表）というのがあって、道の補助を受けて本格的な利用研究や種類研究、成分研究をしている。この江別の研究会に物好きにも出席したのが先月、「びっくりしました。江別には酪農学園大がありまして、それは本格的なんですわ。さし木の仕方から世界中の証拠など集めて、大学の研究室並みの陣容などという。一寸、じっくり入りしてしまつて、知りたい方はどうもご連絡ください。市の木となつている百小牧市でも、ナナカマドの実を知ることが必要ではないでしょうか」と星田さん。

「苦小牧民報」88年3月12日付より

本誌21号（87年11月号）でも紹介した星田さんのナナカマドの実の利用法研究、続報です。今度は各国のエスペランティストから寄せられた、さまざまな利用法。エスペラントが現実に国際的市民交流に使われていることがよくわかります。（編）

サンフランシスコ州立大学
夏期講座

札幌E会青年部設立へ

19回目を迎えるサンフランシスコ州立大学の
エスペラント夏期講座が次のとおり行なわれるこ
とになりました。

3週間、参加者が大学の学生寮に泊る合宿型式
のこの講座は、実力養成に定評のある講座です。

期間 6月27日～7月15日

費用 受講料 全期 260\$
宿泊料 1週間140\$

詳しくは下記へ

S-ino Cathy Schulze

410 Darrell Road
Hillsborough C.A. 94010 USA

(北島瞳)

ここ数年の札幌のE運動のなかから育ってきた
「若手」のあいだで、札エス会青年部設立の動き
がでてきた。日本大会開催準備の過程で連携して
きた三人(平均年齢30歳)が発起人になり、設
立をよびかけている。

青年部は、E能力の向上と国内外の青年組織と
の連絡を強めることを当面の活動方針にしている
が、連盟の春季合宿への協力、今年の日大会後
観光の受け付け、大会への全面協力も打ちだして
いる。部長には渡辺晋道、書記長には馬場恵美子
が就任する予定。

札エス会の伸び悩みがちな青年層の活性化につ
ながることが期待される。

よく使われる 単語 - ことば (3)

(引例: 新選和エス, 新選エス和, 日エス, その他)

ばかりに	腹をたてたばかりに	nur pro la kolero.
ぶり(振り)	3年ぶりて母に会う	vidi patrinon post tri jaroj.
御苦労さま	Dankon pro via klopodo.	Aさんには御苦労をかけました Mi multe ŝuldas al s-ro A pro lia klopodo.
はっきり言う	klare eldiri.	この際はっきり言うておく Mi deklaras definitive ĉe tiu okazo.
ほんの僅かな	vere malgranda.	ほんのお印まで nur por montri dankesprimon. ほんの冗談です Tio estas nur por ŝerco.
今のところ	(現在は) en ĉi tiu momento.	
今だに	(未だに) ankoraŭ nun.	未だかつて ankoraŭ neniam. 今時 nur, nuntempe, hodiaŭ.
何時までも	永久に por ĉiam (eterne).	無期限に sen datlimo, iel ajn longe. 決して neniam. いつまでもこうはいくまい Mi pensas ke la afero ne ĉiam iros tiel glate.
ゆっくり	十分に sufiĉe.	ゆっくりお話ししましょう sufiĉe paroli pri tio. ゆっくりする estu senĝena, estu hejme. ゆっくり眠る libere dormi.
やはり	同じく ankaŭ, same.	結局 fine, post ĉio. にも拘らず malgraŭ. 案の定 kiel supozite. 依然 ankaŭ, ĉiam.
やたらに	がつつがつて avide, senĉese.	やたらに下手な英語を使う senĉese manipulaĉi la anglan lingvon.
自腹を切る	pagi el sia propra poŝo.	自腹を切って proprapoŝe.
……こそ	私こそお礼を申しねばなりません	Ja estas mi, kiu devas vin dankas.

(高橋要一)

札幌E会と中国・瀋陽E会との交流

札幌E会は本年2月、札幌市国際交流課に中国瀋陽市(札幌の姉妹都市)E会との交流を報告する書面を提出した。全文はつぎのとおり。

瀋陽市世界語協会との交流報告

瀋陽世界語協会と当会とは1982年以降交流を深めておりますので、これまでの動きを下記とおり報告いたします。

記

- ① 1981年札幌市が瀋陽市との姉妹都市提携を契機に当会から文通交流を呼かけたところ、翌82年に応答があり、以来4～5名の者が文通していた。
- ② 1986年北京において第71回世界エスペラント大会が開催され(参加者3500名)、札幌の会員11名が参加し、帰途4人が瀋陽市を訪れ、百数十名の大歓迎を受けた。(86年10月国際交流課へ写真で報告済み)
- ③ 1987年10月、日中エスペラント交流の旅で、上海、済南、青島、曲阜、泰安、北京を巡って交流を深めた北海道エスペラント連盟会長・三澤正博札幌教育大学教授は瀋陽世界語協会の趙会長から、瀋陽への訪問を強く要請されたが果せず、次回を約して帰国した。
- ④ 現在の瀋陽の世界語学習者650名、当会の学習者50名。現在の文通交流者は十数名。瀋陽からの文通希望に応じ切れないのが現状である。

La 15a, marto, 1928

小林多喜二の『1928年3月15日』

貫名美隆訳、宮本正男の解説付き、86年刊

60年前、小樽に吹き荒れた暴虐の嵐

*注文は書店へ。発行は日本エス学会と指定

各大会に参加しよう

九州エスペラント大会

第62回九州E大会は4月23/24日に宮崎市で。

☆一般参加費：3000円、不在参加1500円

☆申し込み：〒880 宮崎市中村東2-2-24

浜田眼科内 宮崎E会

☆振替：鹿児島3-31392 宮崎E会

関西エスペラント大会

第36回関西E大会は6月4/5日に大阪府高槻市で。

☆一般参加費：4月末まで2500円、5月

20まで2800円、以降3200円、不在参加1800円

☆申し込み：〒561 豊中市曾根東町

1-11-46-204 関西エスペラント連盟内

大会組織委員会

☆振替：大阪3-313499

第36回関西エスペラント大会

関東エスペラント大会

第37回関東E大会は6月18/19日に東京都杉並区で。詳細は次号。

EL POPOLA ĈINIO

中国から毎月送られてくる全文エスペラント、カラーグラビアが16ページもある豪華な雑誌。

購読料 1年分 3000円
2年分 5400円
3年分 7500円

申し込み先

振替 小樽 1-34034 北畠 瞳

(住所・氏名は漢字とローマ字で)

SALATO

★「3月17日午前8時45分、HBCラジオでナナカマド利用の件で私のインタビューが。時間不足でしりきれトンボに終わった」（苫小牧・星田 淳）

★「昨年10月の核廃絶『平和の波』函館行動のレポートをPACO（世界平和エスペランチスト運動機関誌）日本版に書く。第二の『平和の波』は6月9日から12日まで。日本大会に協力したので、具体的に何をしたらよいか言ってほしい」（函館・岩井正久）

★「『救援新聞』3月5日付け掲載の第41回解放運動犠牲者合葬追悼会・新合葬者699名の名簿に、斉藤英三（評議会委員長、関西エスペラント同盟員）、米村健（米子生健会副会長、米子市議三期歴任）の名が。昨年は木戸又次、一昨年には貫名美隆の名前を見つけた。だれも書いていないが、記憶にとどめる必要はあろう」（金井朗）

☆3月号も当月末発行という「自転車操業」になってしまった。隔月発行なのにどうして遅れるのか、とお叱りを受けた。

☆それとは別にE文の少なさも指摘された。だからというのではないが、今月号はI. U.（伊東三郎の詩とその解説を表紙においた。

タイプライターを議ってください！

海外文通をしていて、やはりタイプライターが必要だな、と思うようになりました。字上符付きがいい、などとぜいたくはいいません。中古の英文タイプをどなたか議っていただけませんか。

（札幌・山岸悦子）

☆20年前の「札幌の朝」のさわやかさが、今年の8月もまた、全道、全国のエスペランチストを迎えることだろう。そう信じている。

☆本誌にE文が少ないという批判は甘んじて受けよう。だが、「書き手」が書かない（書いてくれない）、「書き手」が育たない（とくに“若い”といわれている人たちから）のは、北海道のE運動の現状を如実に示しているのではないか。

☆その意味で札幌E会の青年部結成の気運は歓迎される。かつてHELにも青年部があり、優秀な活動家を輩出したと聞く。その面影はどこに見いだせるのか。とにかく「若手」が伸びなければ運動の未来はない。自省する。

☆新連載・私とエスペラントに登場した佐藤みはるさんと布美子、奈美子さん姉妹の世代が第二世紀の運動を担うのだ。

☆今月号もたくさんの方々から原稿や情報をいただいた。次号にまわした原稿もある。感謝にたえない。どしどし送ってほしい。とくに札幌以外の情報が決定的に不足している。全道に会員がいるのだから、小さなことでも知らせてくれたら、どんなに本誌が充実することか。

☆「私とエスペラント」は常設とするので、おおいに投稿していただきたい。1200字程度にまとめてもらえると、割付けやすい。地方会・個人の動向、書評、外国雑誌からの情報はもちろん、ワープロ、タイプライターの選び方にいたる実用記事も待っている。

☆次号は5月号。なんとか早く発行するようにしたい。そのためにも原稿を。一度でいいから「うれしい悲鳴」をあげてみたい。

☆札幌E会会計の阿部映子さんがこの1月にお父さんを亡くされた。Rondo Pupiloj と札幌E会は弔電と生花でおくやみした。ご冥福をお祈りいたします。

（Kk）